

連携先世界遺産：比叡山延暦寺

古都の仏教 —伝教大師最澄・比叡山延暦寺の魅力と現代—

延暦寺の僧侶による堂塔伽藍の説明および千日回峰大行満大阿闍梨による講話を聞き、学生自身が新たな延暦寺の魅力を発見する。

■受講生

氏名（50音順）で記載してください。

池田 歩未（佛教大学・仏教学部・3年生）、韓 文昊（龍谷大学・文学部・3年生）、小西 優佑（龍谷大学・文学部・3年生）、佐藤 史也（龍谷大学・文学部・4年生）、巽 椋可（龍谷大学・文学部・3年生）、長尾 由唯南（龍谷大学・文学部・2年生）、廣岡 康輔（京都産業大学・経済学部・4年生）、藤原 佳史（龍谷大学・文学部・3年生）、増田 久遠（龍谷大学・文学部3年生）、山崎 美咲（龍谷大学・文学部・3年生）、吉住 恒輝（龍谷大学・文学部・3年生）、吉田 正人（龍谷大学・文学部・3年生）

■担当教員

道元 徹心（龍谷大学・先端理工学部・教授）

活動目的・概要

比叡山は日本仏教の各宗派開祖の多くが修行し学んだことから「日本仏教の母山」と仰がれます。比叡山の約1700haの境内地に100を超える諸堂がありそれらを総称して「延暦寺」と称します。境内地の97%が山林という静かで美しい自然環境にあり、天然林を含む比叡山は「お山は伝教大師の体、お山の木々はお大師様の衣」という意識で現代まで森林管理がなされています。平安時代、伝教大師最澄(767-822)は若くして比叡山に分け入り修行の地とされました。そして自ら刻んだ薬師如来を本尊として一乗止観院(現在の根本中堂)が創建されます。爾来1200年、『法華経』を中心とした天台教学が継承されます。講座では延暦寺を2回訪問し、現在大改修中である根本中堂をはじめとする諸堂を延暦寺僧侶に案内してもらいます。また堂宇を結ぶ道には行者道もあり、千日回峰行の行者道を歩く体験をし北嶺大行満大阿闍梨の講話を聞きます。このようなフィールドワークによって、受講生が比叡山延暦寺の伽藍と修行に関心を寄せ、学生自らが延暦寺の魅力を発見することに期待します。



- 2024.9.26 ガイダンス、グループ分け
- 2024.10.3 世界遺産比叡山延暦寺に関する学習
- 2024.10.10 伝教大師最澄の生涯と思想を学ぶ
- 2024.10.13 比叡山延暦寺を訪問(根本中堂)
延暦寺一山金台院住職磯村良師による
根本中堂の案内と解説
- 2024.10.24 班別活動①(班分け・
各班でテーマ設定など議論)

- 2024.11.3 延暦寺訪問と光永圓導大阿闍梨による講話
- 2024.11.7 比叡山延暦寺での修行について学ぶ
- 2024.11.14 班別活動②(プレゼンに向けて作業)
- 2024.11.28 班別活動③(プレゼンに向けての最終準備)
- 2024.12.5 成果発表に向けた準備
- 2024.12.8 世界遺産関係者と振り返り、成果物発表

活動の成果

延暦寺の魅力、その1.寺院建築に学ぶ

比叡山の改修は比叡山内だけで成り立たせているものではなく、いろいろな人が関与して大改修がなされていることを学びました。そこには天台宗の教えが建築に表れており、比叡山全体が天台宗の教えを説く一つの経典のようだと感じました。

根本中堂の建築は天台様式と呼ばれていて、自分たちと同じ目線から仏像が見られるのは後付けだろうという話でした。それが自分も仏になる可能性を秘めている天台教理に一致しているという話を聞き、建築様式一つとっても、自らの信じる道を建築からも感じとることができ感銘を受けました。また、サワラの木幅が板によって異なったり、雨よけのために屋根が長くしていたりとさまざまな建築面での工夫が見られて面白かったです。

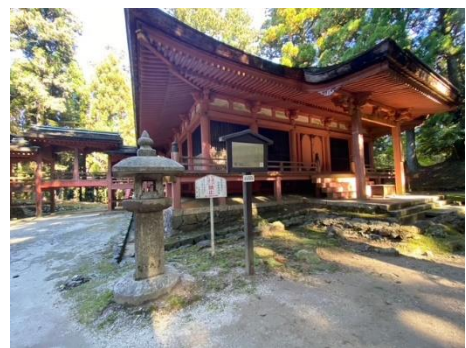
諸堂見学で一番驚いたのは根本中堂です。何といても内陣の地獄壇で3m下がっているとは想像もつきませんでした。



延暦寺の魅力、その2.千日回峰行の体験講話より学ぶ

千日回峰行や十二年籠山行という修行を知った時、比叡山で修行をされる僧侶は私たちとは違い遠い存在であると感じていました。しかし、光永大阿闍梨の話を読み、一度も自分の修行が「凄い」と言われなかったことに驚きました。しかもこの行は好きだかやらせてもらっているという言葉です。行をやっていますとは一言も言われませんでした。これは自分のしている行に対し、満行した今でも、決して満行した自分に自惚れずに周りの人のことを忘れず感謝する気持ちなど、謙虚だけでは言い表すことができない姿勢が見えました。自分の行に決して自惚れない光永大阿闍梨様のお話を通じて、天台の行と教理がお山全体をから成りたっているのではないかと感じました。

千日回峰行とは特別な修行ではなく、日常にプラスして行う修行であるため、日常と並行して行くと聞かされ関心を深めました。千日回峰行では七百日後の堂入り行があり、九日間は食べない・飲まない・寝ない・横にならな修行と聞きます。人間なら七日間で限界を迎えてしまいます。そのため生きてお堂から出られるというのは、生かしてもらっているからだそうで、阿闍梨さんのお話の世界の違う見方があることを学びました。



活動を振り返って

延暦寺の中でも根本中堂の建築は天台様式と呼ばれ内陣の地獄壇が印象深かったです。外陣、中陣、内陣が分かれています、3メートル下がっているとは想像がつかないです。実際に比叡山を訪れることによって得る感動で唯一無二の建築を見ました。千日回峰行の講話を聞いたことによる学びが多かったのが印象です。自分に自惚れずに感謝する気持ちなど謙虚な心でおられ、修行を好きで実践されることに大きな魅力を感じました。(池田 歩未)

比叡山を訪れ、実際に比叡山と時間を共にしている建築についての工夫や意味を聞きながら自分の目で見て学んだ。大学生になってからこうした授業が少なかったので思い出にも残り楽しい授業であった。発表に向けて、受講生同士で話し合い、より良いものへとしようとする姿勢をみて自らも刺激を受け意欲が湧いた。(長尾 由唯南)

私はこの講義を通して現地でその当時のものに触れる大切さを学びました。この講義を受ける前までは気になったことがあってもインターネットで少し調べるだけに終わっていたものが、現地学習を受けるにあたりその場でしか感じることでできない雰囲気や迫力、肌で感じることの喜びや気持ちよさを知ることができました。(吉住 恒輝)

私は比叡山について深く知れてよかったですと感じます。特に印象に残ったことは比叡山の阿闍梨さんの修行についてです。阿闍梨さんはどの人でも辛い修行を耐えることはできると仰り、その言葉がはととも感動しました。私はスポーツをしており期待する結果が出せない時でもこのようにやっていたら必ずできると思いながら日々練習に励んでいます。よって阿闍梨さんの言葉は私にとり親近感を湧く言葉でした。(巽 椋可)

建築、教え、修行について興味を持ちました。長い歴史の中で多くの僧侶たちの活動によって寺そのものの歴史や教え、修行が今も今後も継承されていくと実感しました。プレゼンに向けて全員で準備することは高校生依頼のことで懐かしさと楽しさを感じました。(藤原 佳史)

担当教員からのコメント

道元 徹心

比叡山が古来から「日本仏教の母山」と称される意味をどのように理解するか、受講生の課題としました。講義期間中、二度にわたり比叡山延暦寺を訪問し、体験によってこそ覚える感動が多くあったようです。初回は磯村良定師の案内により、普段の見学では入ることのできないエリアまで案内頂き大修復中の根本中堂を拝観しました。同氏の詳しく懇切な解説により寺院建築とその文化について深く学ぶことができ、学生たちにとって貴重な経験となりました。二回目の訪問では光永圓道北嶺大行満阿闍梨さんから、千日回峰行の体験に基づいた講話を聞かせてもらい、受講生は学生生活の上でも参考になるお話を頂いたと深く感謝しています。比叡山延暦寺について寺院建築の面から、また仏道修行の面から受講生自身が調べ、師から直接聞いたことをもとに、報告会に向けて共同準備していました。そうしたフィールドワークと体験学習に受講生は学びの面白さを見つけました。講義のTAを務めてくれた森恵士さんは学生とのパイプ役やアイデアを提供してくれ、大いに力を発揮してくれました。受講生は資料などの共有を通信アプリを使用しており、以前とは学習方法も大きく変わってきたことを感じます。

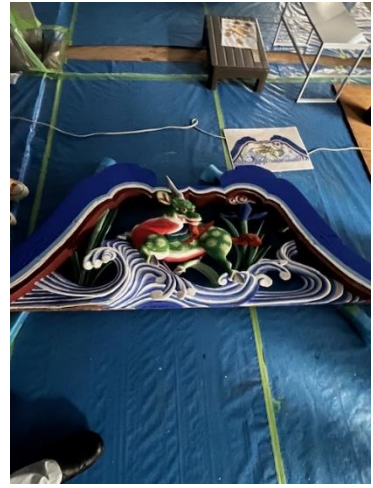
活動資料



西塔の常行三昧堂



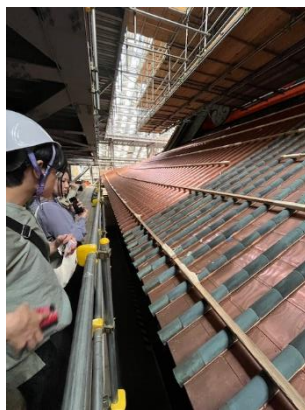
延暦寺の総門にあたる文殊楼



今回の根本中堂大改修の外壁特徴となる墓股について、磯村良定師の説明



伝教大師最澄の廟所(浄土院)



サワラの部材の上に葺かれた銅板を間近に見入る受講生

